

姫路市医師会

ほうもん かんご

訪問看護ステーションだより

居宅介護支援事業所

姫路市医師会訪問看護ステーション 姫路市西今宿三丁目7番21号 TEL079-295-3377

No.024 2007.7 発行

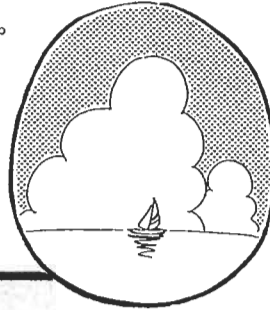
今年は例年より少し遅く梅雨入りしましたが、降る時期にはしっかりと降ってもらって、からっと夏にバトンタッチしてくれないかなど勝手な事を思っています。

子供の頃は高い青空に入道雲がもくもくとでてくると夏がきたんだ、と感じていました。その頃はあの雲までいけたら、きっとふわふわで、両手両足を思い切り広げてお昼寝したらどんなにか気持ちいいだろうと思っていました。学名では積乱雲。たぶん材料は水蒸気と氷で、上昇気流によって形成されるらしいですね。

今では夏の空が、子供の頃より少し低く思えるのは私の背が何十センチか伸びたせいでしょうか。

雲 山村 暮鳥

おうい雲よ ゆうゆうと ばかにのんきそうじゃないか
どこまでゆくんだ ずっと磐城平のほうまでゆくんか



NEWS

訪問介護最大手コムスの指定取り消しのニュースが世間を騒がせています。

利用者はもちろん介護保険に携わるいろいろな事業所にも大きな影響を与えています。

特に訪問介護の事業所は自事業所のサービス内容の見直しや書類の確認作業が厳重になっているようです。利用者の生活の基盤を支えている訪問介護、現場で働いているほとんどのヘルパーさんは心をこめて介護しているはずですが、一部の不正な業者のためにあまり難しくなりすぎても利用者さんが困ったことになるのではないかと懸念します。散歩は訪問介護では認められていませんが、今この人には散歩が必要なケアであるとアセスメントできる能力が現場にあると認められれば、通りいっぺんのマニュアルに支配されることもないのでしょうか。やはり難しい問題です。

69 次の行為の付き添いは、訪問介護の外出介護として算定できるか？

- 1 盆踊りなどの地域行事への参加
- 2 冠婚葬祭
- 3 病院への知人のお見舞い
- 4 通所介護の往復（家族が運転する車にヘルパーが同乗）
- 5 通所介護、介護保険施設の見学（今後受けるサービスを選択する目的）
- 6 買い物（援助がなければ外出困難な者に対して真に必要なサービスを提供）

1 ×、2 ×、3 ×、4 ×（通所介護の送迎を利用する）、5 ○、6 ○

2 の冠婚葬祭への出席については、必要なことである場合もあろうが、基本的には出席する家族親戚等が介護を兼ね同行するのが通例と考えられる。

また、5、6の可とする行為についても、家族等の状況等を勘案の上、介護保険サービスとして必要性があるか否か評価する必要がある。

どうなる療養病床削減

療養病床には医療型（ピーク時25万床）と介護型（同13万床）がある。厚生労働省は入院者について、2006年医療制度改革で2011年度末までに介護型を全廃、医療型も15万床まで減らすことを決めた。消える23万床分は老人保健施設などへ転換させる考えだった。

しかし・・・療養病床削減緩和へ

厚生労働省は5月9日療養病床を2011年度末までに6割減らし15万床とする削減計画について、今秋に下方修正し、削減幅を緩和する方針を固めた。医療機関などに削減する病床の受け皿となる老人保健施設への転換を促しているが、思うように進んでいないため軌道修正もやむを得ないと判断した。修正幅に関しては、終末期の高齢者が滞在できる新型の老健施設を認めるなど受け皿の幅を広げ、3万床程度にとどめたい考えだ。

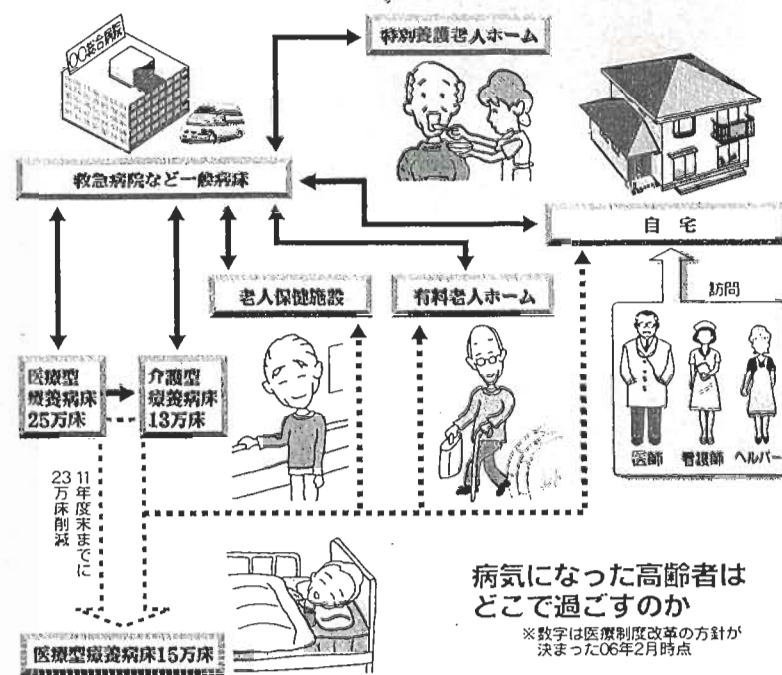
2007年5月10日 毎日新聞より

それから・・・医療法人も特養運営可

厚生労働省は6月19日療養病床を介護施設に転換させるための促進策をまとめた。これまで自治体や社会福祉法人などに限られていた特別養護老人ホームの設置、運営を来年から医療法人にも認める他、医療機能を強化した新しいタイプの老人保健施設を創設することなどが柱。現在は医療法人が特養ホームを設置するには、別に社会福祉法人をつくる必要があるが、医療法人が直接、特養ホームを運営することを認める。また、現行の老健施設はリハビリなどで在宅復帰を支援する性格で、療養病床から転換した老健施設は、医療ニーズの高い入所者が多くなるため、医療機能を強化。夜間看護や終末期の看取りに対応する新型の老健施設とし、介護報酬も加算する。

2007年6月20日 神戸新聞より

どうして「認める」という言葉を使うのでしょうか「困っているのをお願いします」ではないですか。それとも少しちゃんと考えてから方針を出してもらえないですかねえ



亡き奥さんへ
いつかは一人になると覚悟はしていたが、現実になった今、自由な気ままな毎日だが、もぬけの殻の状態に等しい。思えば12年前、あなたは脳卒中で倒れ、右手足のまひと失語症が残った。小生は家事に介助、介護をこなし、あなたにマッサージするのが日課になった。病院での失語症リハビリに励んだが、2年半前にがんの手術を受け、ストーマ（腹部の排せつ口）を装着するよう

男の気持ち

になった。1年前より寝たきりになり、さらに訪問看護のケアも受けた。あなたの妹たち、娘、小生の介護のせいもなく、2月19日に永遠の旅にたってしまっただけ。不自由な体で、さらなる不自由が加わりながら、よく頑張った。ゆっくり休んでくださいと言いたい。

あなたは小生が何とか家事全般、特に食事を作る入り口に立てるまで、失語で意思の通じないところを教える努力をしてくれた。何とか小生一人で生活できると判断し、この辺でさようならと考えたのだろうか。64歳は早過ぎたが、お尻の腫瘍を思えば、もうこれ以上はともつらくて耐えられないとも思う。仕方がなかったと自分に言い聞かせている。あなたの介助、介護が消えた今、何か目標を作り、しばらく、この世に残りたい。そのうちにそちらへ行きま



大阪府 無職・69歳